

太田 吉松君 全	宮崎 航次君	大橋市太郎君 全	中山秀三郎君
伊藤 琢郎君 全	丹羽 鋤彦君	岡田 友信君 全	岸 金三郎君
中坪 壽助君 全	内海 三貞君	中澤 政治君 全	全
渡邊 榮治郎君 全	進 經 太君	浦野 元武君 全	全
小西 龍之助君 全	岸 金三郎君	吉田 鎮一郎君 全	全
清水 勝方君 全	全	大高 庄右衛門君 全	高山 甚太郎君
吉木 信正君 全	全	尾崎 宗吉君 全	野上 由貞君
關口 重治君 全	全		

一 左記ノ諸君ノ退會ヲ認可スルコト

准 員 加藤 直之君 田代 智治君

一 寄附アリタル左記ノ物品ヲ受領スルコト

Lake Biwa-Kioto Canal

一 冊

田 邊 朔 郎君

一 學士會ノ通知ニヨリ爾後學士會月報ト工學會誌トノ交換ヲ止ムルコト

一 農業社ノ申込ニヨリ日本農業新誌ト工學會誌トノ交換ヲナスコト

演 說

東京市改良水道淨水及給水工場ノ位置ヲ變更シタル理由ニ就テ

理 學 士 中 嶋 銳 治

我東京ノ地タル水質善良ナラス井戸ヲ掘鑿スルモ十ノ八九ハ不潔汚水ニシテ日常ノ用ニ足ル可キモノ頗ル稀ナリ二三ノ水道ハ何レモ二百余年以前ノ建設ニ屬シ工事不完全ナルカ上ニ老朽腐蝕シテ水質ヲ汚濁シ殆ント其効用ヲ失ハントス加之其水量ハ漸ク全市ノ大半ニ供給スルニ過キサカ故ニ日常ノ用水甚乏シク本所深川地方ノ如キハ僅カニ上水ノ吐水ヲ汲取シ辛フシテ其用ヲ充スノ有様ニテ非常ニ不便ヲ感スルノミナラス比年惡疫流行等ノ一アリシヨリ衛生上ノ必要ニ促サレ遂ニ此一大改良事業ヲ斷行スルコトハナリシモノ、如シ而シテ其之レヲ施工スルニ當リ曾テ市區改正委員會ノ設計ニ成レル淨水及給水工場ノ位置ヲ變更シタリ依テ今其理由ニ就テ少シク述フル處アラント欲ス

回顧スレハ去ル明治二十三年ノ夏余ガ恰モ獨乙ニ留學セル頃ノ事ナリシ我東京市ノ水道ヲ改良スルノ議既ニ決定セルヲ以テ直チニ歸朝シ〔文部省ノ留學期限ハ翌年五月ニテ滿期ナレドモ〕此工事ニ從事ス可キノ内命ニ接シ筈ヲ収メテ歸朝セシハ實ニ其年十一月ナリ然ルニ其當時該工事ノ景況ハ實地着手ノ一ハ扱置キ市公債ノ担保ニ關スル經濟上ノ問題ニ付キ政府ト協議整ハスシテ爲メニ荏苒時日ヲ送ルノ有様ニテ少シク意外ノ思ヲナセリ而シテ翌二十四年三月ニ至リ漸ク職ヲ市區改正掛ニ奉スルノ運ニ達セリ爾來余ハ市區改正委員會ニ於テ調査セラレタル既往ノ設計ヲ考查セリ同會ノ設計タル先ツ其給水ノ根據タル可キ淨水工場ヲ南豊嶋郡千駄ヶ谷村〔舊戸田區〕ニ置キ又低地給水工場トシテ其一ヲ小石川區傳通院近傍ニ他ノ一ヲ麻布區今井町附近ノ地ニ設置セラル、ノ計畫ニラアリシナリ余ハ第一着手トシテ其中央給水ノ本源ナル淨水

工場及給水工場ノ位置ヨリ調査ヲ爲サント試ミタリ

抑モ千駄ヶ谷(舊戸田邸以下略之)ノ地タル上水々路ノ右岸ニ位シ凸凹高低一ナラスシテ多クノ盛土工事ヲ施スニ非サレハ到底各種ノ池ヲ築造スルヲ能ハサルナリ元來水道ニ用ユル各種ノ池ハ最モ綿密ナル構造ヲ要スルモノナルカ故ニ斯ル盛土上ニ築造ヲ爲スカ如キハ誠ニ危険ニシテ甚好マシカラサル處ナルヲ以テ他ニ適當ノ地ヲ得ンヲ欲シ其工場附近ノ地ヲ踏査シ桑田郊野ヲ跋涉セシニ漸クニシテ上水路ノ左岸ニ屬スル淀橋町地内(第六圖面ニ示ス)ニ於テ地勢上淨水工場トシテ適當ナルヘシト思考セラル、一地區ヲ發見セリト雖凡之レカ實測ヲナシテ其結果ヲ知ルノ後ニアラサレハ未タ俄カニ可否ノ判定ヲ下スヲ能ハサルナリ依リテ之レカ實測ヲ爲サンヲ市區改正掛ニ謀リシモ費用ノ出所ヲ得スシテ爲メニ其希望ヲ當時ニ果スヲ得ナリシナリ

同年五月余ハ東京府廳ニ轉任セルモ其執ル處ノ業務ハ毫モ異ルヲナキヲ以テ尙ホ曩ノ想像ヲ充分ニ確メントノ希望ハ日トシテ起ラサルヲナカリシガ幸ニ理學士原龍太君ノ盡力ニ依リ大約二ヶ月ヲ費シ其測量ヲナシタルニ其結果ハ意外ナル高地ニテアリシナリ故ヲ以テ此處ニ淨水工場ヲ設置セントスルニハ其近傍ヨリ現上水ヲ分疏セシムルヲ固ヨリ爲シ能ハスト雖凡少シク遡リテ其分水口ヲ設置シ新ニ堤塘ヲ築造シテ一ノ水路ヲ開キ其傾斜ヲ緩ナラシムレハ或ハ此目的ヲ達スルヲ得ヘシト考ヘ更ニ進テ代井田橋(南豊嶋郡代井田村ニアリ)近傍迄測量ヲナサシメタルニ其考察ハ遂ニ空シカラズシテ余ガ希望ヲ満足セシム可キ結果ヲ來セリ茲ニ於テカ余ハ此淀橋町地内ノ一地區ヲ以テ淨水工場トシ又低地給水工場ヲ本郷元町及芝榮町

ニ設クルヲ適當ノ位置ナリト信シ之レカ變更ノコトヲ水道工事長古市博士ニ謀ル博士又大ニ余ガ計畫ニ賛成ヲ與ヘラレ遂ニ案ヲ具シテ市參事會及市區改正委員會ノ議ニ附シ稟議スル處アリシニ忽チ可決セラレタルヲ以テ愈舊設計ノ位置タル千駄ヶ谷小石川及麻布今井町ノ地ヲ棄テ、淀橋町本郷元町及芝榮町即チ現今施工シツ、アル處ノ位置ニ變更實施スルコトハナレリ依テ余ハ今茲ニ新舊兩者ノ設計ニ付キ其得失ヲ列叙シテ諸君ノ清聽ヲ瀆サントス蓋シ此水道改良ノ事業ニ於テ其新水路引入口ヨリ上流ハ總テ從來ノ上水路ヲ利用スルモノナルカ故ニ玉川上水ノ成立ニ就キ其大要ヲ述フルハ自然ノ順序ナルヘシト信ス以下少シク之レヲ辯セシ

抑モ多摩川ハ其源ヲ甲州一ノ瀬ノ山谷ニ發シ其水流レテ武州ニ入り始メテ多摩川ノ稱アリ然シテ我東京水道ハ實ニ此水ヲ導致スルモノニシテ引入口ハ西多摩郡西多摩村大字羽村ニアリ然シテ其取入口ノ上流ニ屬スル流域ハ凡ソ三千九百萬余坪ニシテ水田少ク加之青梅其他一二ノ村落ヲ除クノ外ハ大概斷岸絕壁ノ高地ニシテ樹木鬱蒼其上ニ繁茂セルカ故ニ汚水ノ流入シテ水質ヲ汚濁スルノ處少シ羽村分水口ヨリ新水路引入口ニ至ル水路ノ延長ハ大凡ソ九里ニシテ其ノ水質ハ羽村近傍ニ於テハ最モ清淨ナリト雖トモ新水路引入口ニ達スルニ及ンテ少シク暗淡タル水色ヲ呈セリ之レ畢竟其ノ水路ノ構造不完全ナルヨリ生スル結果ニ外ナラサルナリ之レヲ要スルニ元ト此ノ水路タル單ニ地面ヲ掘鑿開通シタルモノナレハ兩岸ノ勾配急ナルカ上ニ流水ノ速度モ亦急ナルカ故ニ常ニ其浸潤周圍ヲ洗ヒテ固形物ヲ浮遊セシムルノミナラズ狹山池ヨリ流出スル處ノ濁水ヲ混入シ來ルヲ以テナリ然リト雖モ其水

量ハ充分ナルカ故ニ漸次之レカ改良ノ策ヲ施セハ必ス圓滿ナル結果ヲ見ルヘキヤ疑ヒナシ
サレバ此ヲ我東京市改良水道ノ水源トシテ撰擇セシハ蓋シ適當ナルモノナルヘシ

前段既ニ述ヘタルカ如キ有様ニテ此淨水工場ノ位置ハ變更セラレタリト強ク從來之レカ設
計ニ従事サレタル技師諸君ハ千駄ヶ谷ヲ以テ淨水工場ノ位置トシテ撰定セラレタリ思フニ
其當初此位置ヲ千駄ヶ谷ノ地ニ撰定セラレタル所以ハ其地四ツ谷大木戸ヨリ僅カニ八百間
ノ上流ニ位シ現今ノ水路ト比較レ其間ニ大約二十尺ノ落差アルヲ以テ之レヲ利用シ可成現
今ノ水路ヲ使用センコトヲ計リ一ハ以テ市街接近ノ地ニ此工場ヲ設置シ其工費ヲ節減セシメ
ントノ意ニ外ナラサルベシ然レモ愈此改良事業ヲ實地ニ施工セントスルノ日ニ當リ尙ホ之
レカ精細ナル調査ヲ遂クルニ千駄ヶ谷ヨリ代井田橋ニ至ルノ間ハ其水路著シク南方ニ廻リ
直路二千二百六十間ニ對シ二千八百間ノ迂路ヲ取レリ而シテ此間ニ於ケル水面ノ落差八十
八尺余ナルカ故ニ代井田橋附近ノ地ヨリ淀橋町ニ至ルノ間其距離凡ニ千間ニ勾配緩ナル一ノ新水
路ヲ築造スレハ其淨水工場ノ位置ヲ高メ得ルコト千駄ヶ谷ノ舊位置ニ比シテ實ニ十五尺ニ
余レリ然リト雖モ此新ニ開通スヘキ水路ハ盛土上ニ築造セサルヘカラサルモノナルカ故ニ
後日幾分ノ沈下ハ免ルヘカラサルモ通水ノ深サ淺キヲ以テ敢テ危險ノ虞ナカル可シト思考
セリ

夫レ淨水工場ノ位置ヲ高カラシムルノ利益ハ固ヨリ一ニシテ足ラスト雖モ今我東京市ノ水
道改良事業ニ於テ感スル主ナルモノニ付テ之レヲ述フレハ高地給水區域俗ニ山ノ手トニ向
テハ其配水ニ要スル水量ヲ高サ十五尺ニ揚水スル器械力ヲ減スルヲ得ヘク從テ其器械ノ購

入維持費及石炭消費ノ高ヲ減少スヘキナリ低地給水區域(俗ニ下町ト稱スル部分)ニアリテモ亦然リト
 ス今假ニ此減少ヲ爲サザルモノトスレハ淨水工場ヨリ自然流下法ニヨリテ導致ス可キ鐵管
 ハ其内徑小ナルモノニテ事足ル可ク若シ亦此二者共ニ減少ヲ爲サ、ルモノト假定スルモ之
 レニ對スル送水量ヲ増加シ得ルハ誠ニ明カナル處ニシテ異日水量ノ需用増加セル場合ニ於
 テモ容易ニ之レヲ供給シ得ルノ便アリ之レヲ約言スレハ淨水工場ニ於テ其水面ヲ十五尺高
 カラシムレハ爲メニ利益スル處ハ器械力即チ石炭消費高及器械購入價額ノ減少トナリ鐵管
 内徑ノ縮少トナリ又送水量ノ増加トナルニ至ル可シ加之鐵管布設ノ際ニ於テモ亦大ニ其施
 工ヲ容易ナラシムルノ益アリ如何トナレハ淨水工場ヨリ低地給水工場ニ送水スルニハ自然
 流下法ニ依ルカ故ニ其鐵管ハ如何ナル場合ニ於テモ動水傾斜線以下ニ布設セサル可ラス然
 ノ舊設計ノ位置ナル千駄ヶ谷ニ淨水工場ヲ設クルト假定スレハ其沈澄池ニ於ケル水面ノ高
 サハ鯉岸嶋ニ設クル水量標ノ零點以上百二十七尺ニシテ同處ヨリ小石川傳通院附近ノ給水
 池ニ至ル線路中(第一圖面ニ示ス如ク)大久保余丁町近傍長千六百余間ノ間ハ鐵管布設ノ爲メニ二十尺
 乃至三十五尺ノ堀鑿ヲ爲サ、ル可ラス又千駄ヶ谷ヨリ麻布今井町給水池ニ至ル線路中(第二
 圖面ニ示ス)凡ソ九百間ノ間ニ於テハ十八尺乃至二十七尺ノ堀鑿ヲ要ス可シ以上ノ如キ道路ノ幅
 員狹隘ナル處ニアリテ斯ノ如キ深キ堀鑿ヲナシテ施工セントスルハ實ニ容易ノ業ニ非ラサ
 ルナリ然ルニ新設計ノ位置ナル淀橋町淨水工場ニアリテハ沈澄池水面ノ高サハ百四十三尺
 ナルカ故ニ同處ヨリ本郷元町ナル給水池ニ至ル線路(第三圖面ニ示ス)ノ堀鑿ハ十二尺以内ニシ其距
 離モ亦甚長カラス又淀橋町ヨリ芝榮町ナル給水池ニ至ル線路(第四圖面ニ示ス)ハ淨水工場内ニテ長

二百間ノ間ハ十八尺乃至二十五尺ノ堀鑿ヲ要シ青山練兵場ニテ長二百三十間ノ間ハ十八尺乃至二十一尺ノ堀鑿ヲ要シ麻布六本木通ニテハ其長二百五十間ノ間十八尺乃至二十尺ノ堀鑿ヲ要スルニ過キササルナリ其施工ノ難易以テ知ルヘキナリ

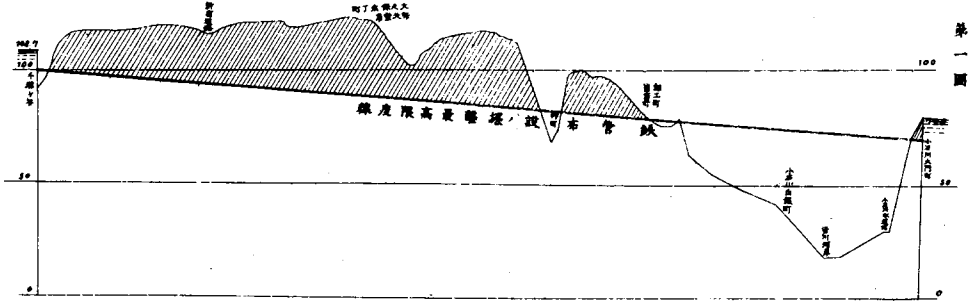
淨水工場ノ位置ヲ淀橋町ニ變更シタルカ爲メニ長サ二千余間ノ新水路ヲ開通築造セサル可カラサルコトハ前既ニ述ヘタルカ如シ而シテ之レニ對スル多少ノ工費ヲ要ス可キハ勿論ナレバ縱令此工場ヲ舊設計ノ如ク千駄ヶ谷ニ設クルモノトスルモ其ノ上流凡ソ千間ノ間ハ人家ニ接近セルカ故ニ其ノ部分ノ上水路内ニハ幾多ノ汚物ヲ投棄シ或ハ多少ノ汚水ヲ流入セシムルノ虞ナキヲ保セス若シ果シテ斯ル狀況アリトセンカ勢ヒ之レヲ防グカ爲メニ覆蓋等ノモノヲ設クルノ必要ヲ生シ亦若干ノ費用ヲ要スヘキナリ加之此上水路ハ遠ク二百余年以前ニ於テ開鑿セラレタル露渠ニシテ兩岸ノ破損及底面ヨリ流剝シ來ル土砂ヲ防止スルノ工ナキカ故ニ或ハ崩壞シ或ハ陷落セルノ状態ハ往々之レヲ目撃スル處ナリ而シテ此上水路沿岸ノ村落ヨリ來ル處ノ汚物ヲ防遏スルノ工事ハ早晚必ス家ハ實施セサル可ラサルヲ以テ新設計ニ伴フ處ノ二千余間ノ新水路ノ築造ハ他年改良ス可キ水路ノ幾分ヲ今日ニ施工シ置クモノタルニ過キササルナリ殊ニ沈澄池濾池淨水池等多數ノ池ヲ築造スルカ爲メニ堀鑿スル處ノ土積ハ過半此新水路ノ築堤ニ利用スルカ故ニ殘土ノ處分ニ就テモ一大便益ヲ得タルナリ

淨水工場ノ位置ヲ變更シタル爲メニ得ル處ノ利益ハ尙ホ之レニ止マラサルナリ即チ舊設計ノ位置ナル千駄ヶ谷ノ地勢タル上ニ云ヘルカ如ク凸凹甚シキ第五圖面ニ示ス如クヲ以テ各種ノ池ヲ

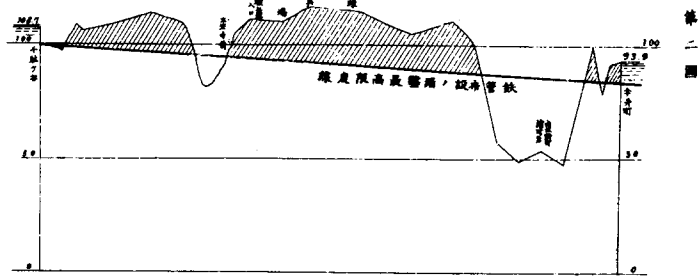
築造セントスルニハ先ツ三萬有余坪ノ盛土工事ヲ施サ、ルヲ得ス如斯ニ盛土ヲナシタルノ土地ハ天然ノ地盤ト異リ多少ノ沈下ハ到底免ルヘカラサルヲ以テ頗ル危険ノ恐レアルノミナラス施工上ニ遭遇スヘキ種々ノ困難ト其ノ工費ノ増加ハ又免ル能ハサル處ナリ之レニ反シ新設計ノ位置タル淀橋町ノ地形ハ〔第七圖面ニ〕高低能ク諸池ノ配置築造ニ適シ盛土事業ヲ要セタルカ故ニ危険ノ虞ナク從テ施工亦容易ナリ

又低地ノ給水工場ヲ本郷元町及芝榮町ニ變更シタル所以ノモノハ淨水工場ヨリ水ヲ兩給水池ニ送致スル處ノ鐵管ハ其各給水區域内ニテ二十四時間中ニ消費スル平均水量ヲ送り得ヘキモノニシテ各給水工場ヨリ市内ニ配水スル處ノ鐵管ハ其區域内ニ於テ一日中ノ最大需用ノ水量ヲ送ルニ適スヘキモノニシテ一朝失火ノ災アルニ際シ可成其水勢ヲ減セシメスノ消火ノ用ニ供スルヲ得セシメサル可ラス且ツ低地給水池ハ可成多量ノ水ヲ消費スル部分ノ近傍ニ設置スルヲ要スルモノナルカ故ニ淨水工場ヨリ自然流下法ニヨリテ導致スル鐵管ハ務メテ其距離ヲ延長セシメ然シテ配水管ハ可成之レヲ短縮セシムルヲ得策ナリトス今此兩給水工場ノ位置ヲ變更シ其自然流下管ヲ延長シ配水管ヲ短縮セシメタルハ一ニ給水ノ安全ヲ計ランカ爲ニシテ淨水工場ヨリ本郷及芝ノ兩給水工場ニ至ル鐵管線路ハ舊設計ノ線路ニ對シ比較的ニ施工甚タ容易ニシテ兩給水工場ニ至ル距離ハ殆ント相等シク且ツ其給水池ノ水面モ畧ホ同一ノ高サナルヲ以テ同一ノ鐵管ニヨリ同量ノ水ヲ同時限ニ送致スルヲ得ヘク又共ニ同一ノ唧筒機ヲ使用シ得ルノ便アリテ若シ一方ニ於テ機械ノ動作ニ異變ヲ生シ其運轉ヲ停止セサル可ラサル場合ニ臨ミテモ給水池ノ水面同一ナルヲ以テ一時ニ双方ヨリ自

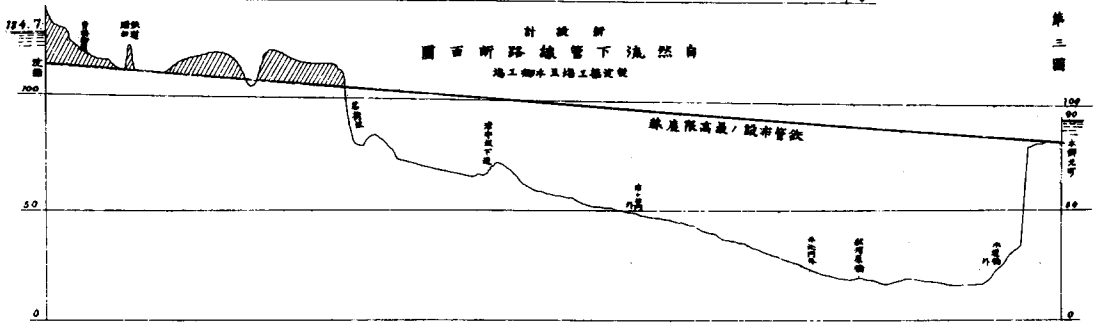
計說四
圖面新路線管下流然自
町門大川西小五本ノ設計



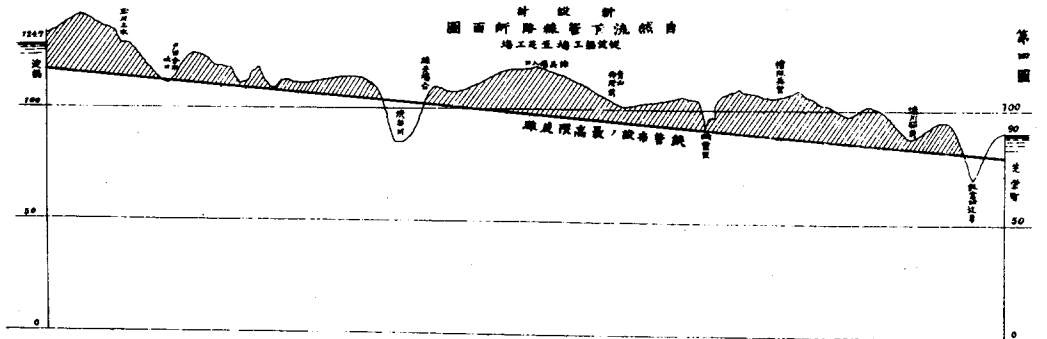
計說三
圖面新路線管下流然自
町丹今赤森五年ノ設計



計說二
圖面新路線管下流然自
地工物水及地工物定規

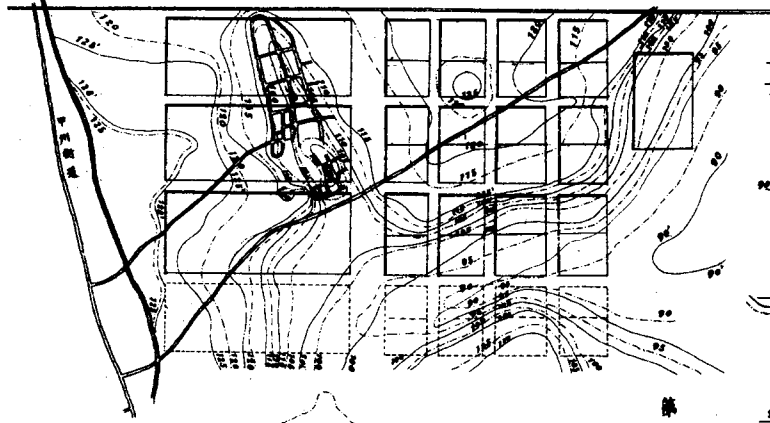


計說一
圖面新路線管下流然自
地工定至地工物定規



一之分万五尺縮平水

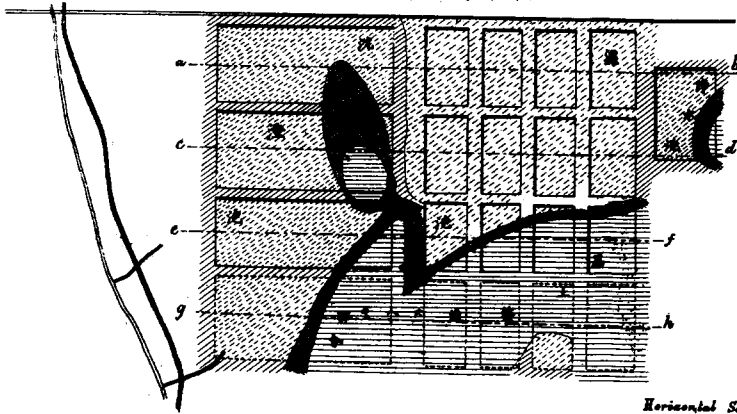
一之分千尺縮立直



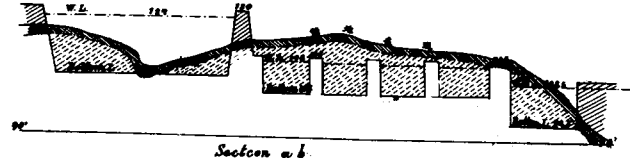
最高河面線 階梯式土堤

第五圖

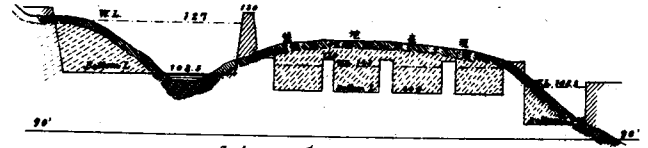
圖面平場工水淨谷ヶ敷十計設旧



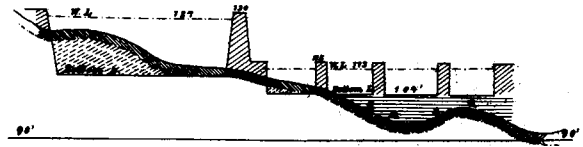
Horizontal Scale 1:9600
Vertical Scale 1:800



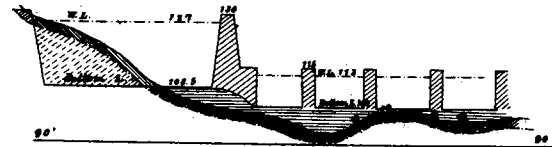
Section a b



Section c d



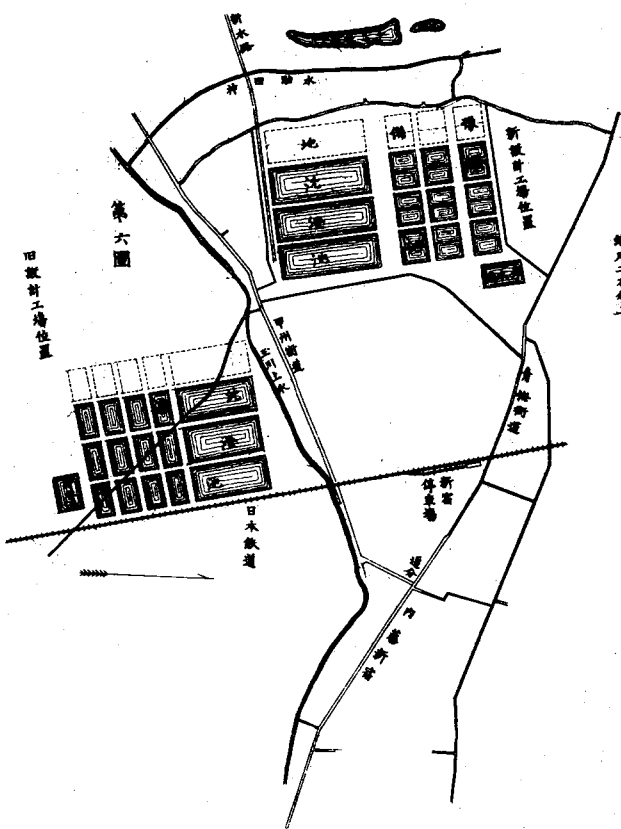
Section e f



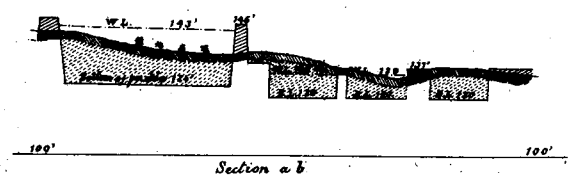
Section g h



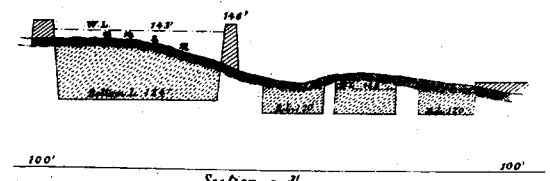
工場位置新舊設計比較圖
縮尺二万五千



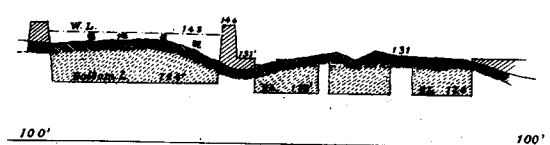
第六圖



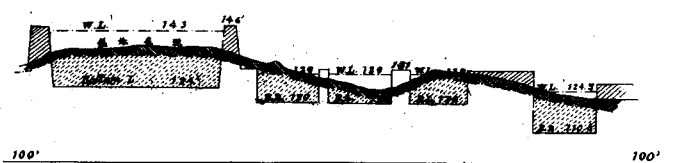
Section a b



Section c d

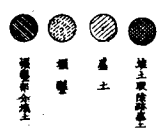


Section e f

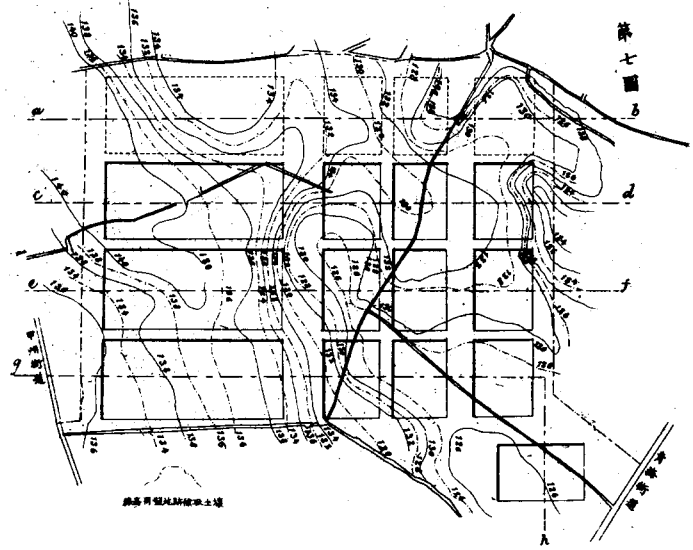


Section g h

Horizontal Scale 1: 9600
Vertical Scale 1: 800



橋淨水工場平面圖



第七圖

然流下法ニヨリテ給水スルヲ得ルノ便ヲ有ス

上來述ヘタル位置變更ノ爲メニ増加スル處ノ費用ハ工事落成ノ後ニアラサレハ元ヨリ其精額ヲ知ルニ由ナシト雖モ今之レカ大様ヲ舉クレハ新水路敷地購入ノ爲メニ貳萬五千圓ヲ要シ又其築造費ニ拾壹萬四千圓ヲ要スル豫定ニシテ合計拾三萬九千圓ハ新設計ノ舊設計ニ比シ増加スル處ナリトス然レモ此變更ニヨリテ利スル處ハ第一ニ二百四十馬力ノ唧筒力ヲ減ス從テ此唧筒機及機關ノ購入價額ヲ減シ又所屬建物ノ建築費ヲ減少ス加之年々歳々石炭消費高ノ減少ヨリシテ六千五百有余圓ツヽヲ利スル割合ナリ故ニ將來此位置變更ニ依テ東京市カ享有スヘキ利益ト便利トハ決シテ鮮少ニアラサルヘキヲ信ス

以上ハ我東京市改良水道淨水池及給水池ノ位置ヲ變更シタル理由ノ大概ナリ意先ツ到リテ言未タ盡サス幸ニ之レニ依リテ其要ヲ知悉セラルレハ余カ本意達セリ終ニ臨ミ謹テ諸君ノ清聽ヲ瀆セシヲ謝ス

附論評及質疑

○會長(安永義章君) 皆ヤン、御質問又御意見等ガアリマスレバ直ニ御述ベニナリヌウゴサイマス

○問(安永君) グレードハ幾ラ位ノ割合ニナツテ居リマスカ

○答(中嶋君) サウアスナ、淀橋ノ池ノ水面ハ百二十四尺七寸本郷、芝池ノ水面ハ九十尺アルカラ、サウス
ルト三十四尺七寸ノ差ガアリマス

○問(安永君) 其管ノ長サハドノ位アリマスカ

○答(中嶋君) ソレハ二万二千尺許リテアリマス

○問(安永君) アチラハ(圖ヲ指シ)如何程アアリマスカ

○答(中島君) 淀橋芝間ノ自然流下管ノ距離ハ前ノモノト大概同シマス、ソレテ此鐵管ハ各五十萬人
 クニ供給スル鐵管アアリマス、東京ノ水道ハ百五十萬ノ人口ニ供給スルノ計畫アアリマシテ毎日一人
 ニ付四立方尺ツレ供給スルノデアリマスガ實際ハ四立方尺ヨリ餘計使フカモ知レマセン、後トテ架換
 ヘチシナイヤウニ大キクシテアリマス、ソレテ先程申上ケタ通り淀橋ノ池ノ水面が高クナリマシタカ
 ラ鐵管ハ同シモノヲ用井テモ水量ハ餘計來ルト云フコトニナツテ居ル

○問(安永君) サウスルト今ノ變更ノ爲ニ芝ノ方ハ何尺カ下ツタノアスナ

○答(中嶋君) 元ハ九十三尺アシタガ九十尺ニナリマシタソレテ元ノ計畫アアルト麻布ノ方ニ行ク水
 ト本郷ノ方ニ行ク水トハ勾配ガ違ツテ居ルカラ水量カ違ツテ居リマシタ

○問(安永君) 芝ノ方ハ三尺下ツテ本郷ノ方ハ……

○答(中島君) 十尺バカリ上ツタノアス

○問(安永君) サウスルト今ノ計畫アハ傳通院ノ方ヨリ十尺ダケ少クナツタノアスナ

○答(中嶋君) 淀橋ノ方ガ高クナツテ舊戸田邸ハ十五尺下ツテ居リマスカラ……

○會長(安永君) 外ニ御質問ハアリマヘヌカ御質問モナイヤウアゴサイマスガ今晚ノ中嶋君ノ御演説
 ハ甚ダ工學會ニ取ツテハ有益ナ演説アアル、工學會ノミナラズ我々東京府民ニ取ツテ大層要用ノコト
 ナ例ツタノアス此水道工事ノコトニ就テハ中嶋君ガ述ベラレタ通りニ二十三年以來從事シテ色々御
 調査ノ後ニ此位置ヲ真イ所ニ御選定ニナツタ、此コトニ付テハ警テ古市君カラモ御話ガアツテ大變中
 嶋君ノ功ト云フモノハ宏大ナモノアアル、此位置ヲ選定シタト云フノハ實ニ東京水道工事ニ取ツテ大
 層利益アルコトアアルト云ツテ古市君モ大ニ稱讚サレテ居ツタコトヲ私ハ聞キマシタ、今夜同君モ此
 處ニ居ラレタナラ定メシ其贊辭ヲ述ベラレラウト思ヒマス、マア私ナドモ今晚何ツテ實ニ其位置
 ナ變更サレタコトノ極至當デアツテ我々府民ニ對シテハ大變利益アアルト云フコトハ明アアルト考
 ヘマス、ソレテ實ハ此中嶋君ノ演説ハ中嶋君ガ非常ニ謙遜サレタ演説カト思フ、實ハ私ナドノ考アハ淨

水及給水工場ノ位置ヲ選定シタル理由ニ就テト云ハレテモ宜イカト思フ位アアル、併ナガラ中嶋君ハ甚ダ謙遜サレテ唯變更ト云フダケニ問題ヲ止メラレタ、世ノ中ノ人ハソシナコトハ知ラナイ、初セテ遊橋ニ出來テ居ルノア彼處ニ極ツテ居ルト思フテ彼ノ位置ト云フモノハ變更シタ位置ト云フコトハ知ラナイ儘キニ一應選定サレタルハ一ツノ順序ト見レハ可ナリ故ニ中嶋君ニ於テハ此ノ位置ヲ選定サレタモノトシテモ宜カラウカト思フ位アアル、兎モ角モ今夜ノ御演説ト云フモノハ甚ダ有益ナルモノアアツテ私ハ専門外ニアルカラシテ充分ニ其効能ヲ述ベル譯ニ行キマセヌカ、併ナガラ諸君ハ充分御理解アアラウト思フ就テハ同君ニ對シテ謝辭ヲ述ベタイト考ヘマスガ諸君ト共ニ手ヲ拍ツテ其意ヲ表シトウ存シマス 一同拍手

拔 萃

○瀧機の病理(八九四十一月廿三日社説)

瀧機保險大會社ノ機關科技師ハ之レヲ他ノ如何ナル一箇

人ニ比スルモ必ス瀧機ノ弱點ヲ研究スルニ最好ノ機會ヲ特有スル者ト云フベシ而シテ又機械製造ノ大工場主管者ハ自ら製造セル瀧機ニ就テハ其特性及ヒ破損ノ起リ易キ局部等ノ詳細ヲ知悉シ得ベシト雖モ自家以外ノ工場ニ於テ製作セルモノニ對シテハ失敗原因等ノ巨細ヲ知り得ザルヲ常トス然ルニ保險技師ハ之ニ反シ許多ノ工場ノ製作物ニ就キ研究スルノ便アルヲ以テ若シ適任ノ人ナランニハ(今ノ技師ハ大抵適任ナルベキモ)吾人ハ其會社ノ年報ニヨリテ許多ノ必要事項ヲ承得スベキナリ茲ニ瀧機瀧罐及ヒ儲主責任保險會社ノマイケル、ロングリツヂ氏最近ノ報告ハ即チ曲拐軸ノ勞衰ヨリ來リタル損失ニ意ヲ注ギタルモノト云フベシ氏ノ報告中種々例示シタル特異ナル點ハ主トシテ受壓ノ外見的 safety circle ハ彼ノウオーレ

拔 萃